

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2571800115
法人名	財団法人豊郷病院
事業所名	甲良町グループホームらくらく
訪問調査日	平成 21年 10月 20日
評価確定日	平成 21年 11月 3日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2009年10月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2571800115
法人名	財団法人豊郷病院
事業所名	甲良町グループホームらくらく
所在地	滋賀県犬上郡甲良町在士625 (電話) 0749-38-8181
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ 滋賀福祉調査センター
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階
訪問調査日	平成 21年 10月 20日

【情報提供票より】(21年9月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人 非常勤 5人 常勤換算 7.1 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(9月 29日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90.6 歳	最低	82 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人豊郷病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「甲良町グループホームらくらく」は甲良町設置、豊郷病院運営でデイサービスも同敷地内にある。グループホームの前庭は小学校のグラウンドとなっておりその境界は低い生垣のみで児童の走りまわる姿や声を聞いているだけで心癒せる。学童保育の児童や併設のデイサービスの利用者から訪問を受けたり、デイサービスの各種サロンに参加したり常時交流が出来ている。小学校の発表会や地域の人から薩摩芋の収穫に招待を受けたりする一方、地域自治会の介護の研修会に講師を派遣している。利用者の看取り時にはボランティアの人々により枕元で本人の好きな曲を大正琴で演奏し心安らかな看取りもして頂けた。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員個人毎の育成計画を作成して職員の育成とケアの質向上に向けた取り組みを課題としていたが未だ着手出来ていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員がそれぞれ全項目に亘って自己評価を行った。それらをセンター長が取りまとめ3件の課題を抽出した。課題解決に向けた活動に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者代表、家族代表、地域代表、行政職員、関連施設責任者、医療連携の看護師、事業所の管理者及び職員の9人で構成して2ヶ月毎に開催している。議題はグループホームの運営状況や利用者の生活報告と地域行事との連動事業や地域研修会への講師派遣などである。運営推進会議での課題はミーティングの中で反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月1回の家族訪問時や家族会(年2回開催)での意見要望などの聞き取り及び、運営推進会議で意見などを引き出す努力をしている。現在まで苦情は上がっていない。意見などはミーティングの中で検討し解決に向けて努力をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	火事や地震を想定した避難訓練の実施に当たって地域の大きな協力体制で成功出来た。地域の人から菜園で収穫した野菜などホームの玄関にそっと差し入れがあったり、児童達が農業体験での収穫物の差し入れがあったりそのお返しに雑巾を作り持参するなど地域との交流は活発である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は4か条あるがその内「地域交流をおこない、社会的にひらかれたホームになるようにつとめる」と地域に密着した運営理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼で全職員が唱和して理念の共有化に努めている。ホームの玄関にも理念を掲示して訪問した家族や地域の来訪者にも目にとまるようにしている。ミーティングの中でも折に触れ理念の実践に向けた話をセンター長がしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや地藏盆などの行事や、老人会行事には積極的に参加している。小学校の発表会への参加や農業体験の米の贈呈を受けて雑巾を作り返礼するなど交流は活発にしている。認知症のキャラバンメイトの講師として地域廻りをしたり、地域研修会に認知症や介護の関係の講師も務めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で全項目の自己評価を行いそれらのまとめはセンター長がおこない、課題を抽出して仕上げた。新しく掲げた課題に向けて改善に向けて取り組んでいる。自己評価を通じて日頃の仕事を客観的に観察することができた。		
		○運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。メンバーは		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町職員、地域代表、利用者代表、家族会代表、事業所職員で構成している。事業所の活動報告や利用者の生活の出来事など多岐に亘って議題としている。課題はミーティングの中で話し合い、ケアの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	甲良町役場から「認知症の啓発事業」「介護予防教室」の委託を受けて年間6～7回の講座の講師を務めている。甲良町と介護と医療との共同研究も行い連携をした活動をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは季刊紙として発行している。家族通信は請求書と一緒に毎月発行している。利用料は家族から毎月納金する事にしており、その訪問時に利用者の生活ぶりを報告している。報告内容はマニュアル化した内容を記載して報告漏れが無いようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会(年2回)や事業所のイベントなどの家族参加時や毎月の家族訪問時に意見や苦情を吸い上げる努力をしている。それらで提起された課題はミーティングで話し合いをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	明るい職場、風通しの良い職場作りに心がけている。その結果、職員の離職はない。異動についても最小限に押さえる努力をしており今年度も異動はない。職員が代わる場合には利用者へのダメージを防ぐ為にも重複期間を設けている。又以前の離職者も時々ホームへ訪問して利用者の心を和らげてくれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修やグループホーム部会の研修、事業所内の研修など職員を育てる機会は数多く持つように努力している。外部の研修は出張扱いで受講料も事業所負担としている。	○	職員個々の能力や育成方針を確立して職員ごとの年間育成計画を作成し職員本人にもやる気と向上心を刺激してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦愛犬地域グループホーム部会の交流会(隔月開催)や職員が互いのホームへ出向いての交換研修会(毎月)には参加をしている。それらの情報は事業所に持ち帰り展開する為にミーティングで話し合いしてケアの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームと同敷地内で併設しているデイサービスとも連携をしながら、デイからの利用や、体験入居も利用予定者が納得するまで何回も受け入れて馴染みが深まるまで対応している。又家族との宿泊も受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として利用者が職員に指導出来る様な機会を多く持つように配慮している。菜園での種まき、間引き、害虫の駆除、保存食の作り方等はその都度指導を得ている。地方の伝統行事や風習なども指導を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の価値観や判断基準を理解する為に入居前にアセスメントの実施や入居者の生活の中から意向観察を細かく行い小さな表出であっても読み取る努力をしている。又判断に迷った時などはいくつかの選択肢を提示してその中から明るい表情をくみ取るなどを積み上げて利用者の思いや意向を把握するようにしてい		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成はセンター長(ケアマネジャー)、主任、訪問看護師や主治医の意見と家族の意向を聞きながら作成している。		
		○現状に即した介護計画の見直し			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化を観察しながら必要により、都度見直しを行っている。状態変化が無くとも3ヶ月に1度は見直しを掛けるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を取っている。利用者のかかりつけ医への受診や理美容院への送迎を必要により家族に代わって行っている。利用者の希望により隣接するデイサービスの行事参加や、利用者の従前地域で行われている高齢者サロンや老人会行事等に事業所で送迎対応と時には職員も一緒に行事参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医は従前の主治医をそのまま引き継いでいる。かかりつけ医へは往診や通院対応であるが通院時に家族で対応出来ない時はホームで対応しており必要に応じて看護師も付き添いをしてその都度診察結果は家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が入居時に、重度化した時のホームでの対応は説明している。家族との話し合いの中で折に触れ繰り返し話をしている。利用者が重度化した時点で「重度化対応、終末期のケア対応指針書」に家族の同意を得て署名、捺印して双方で保管している。ホームでの看取りの経験はある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いは運営規定に定めると共に個人情報の書類は事務所のロッカーに保管している。人権学習については全員参加で勉強している。広報類などに利用者の顔写真を掲載する場合は利用者家族から同意を得ている。利用者に接する言動等について注意をはらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしてのスケジュールはあるが、(朝昼夜の仏壇での読経、1日3回の健康体操)利用者の体調や気分を大切にして個々のペースに合わせて散歩、買い物、ドライブ、趣味のパッチワークなど希望に沿って柔軟な対応で支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の取り入れ、誕生会、外食は月2回、ひな祭り、月見など季節を感じて食事を楽しむ工夫をしている。地域の人からの野菜の差し入れやホームの収穫物で話題を賑わしながら職員と共に同じ食事をしている。利用者の能力に応じて食前、食後の準備や後始末をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広く手すりや暖房設備があり、脱衣室も広いスペースで手すりや床暖房設備がある。毎日の入浴時間帯は一応決めてはいるが、利用者の希望に応じ朝からも入浴対応している。入浴時には、事故防止のためにも職員が付き添い、会話を楽しみながら入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの仏壇に朝、昼、夜と毎日3回の読経や、1日3回の座っての健康体操をはじめ、地域ボランティアの協力で貼り絵、墨絵、パッチワークづくりや雑巾縫い、ホーム内の菜園管理、地藏さん参り、散歩、ホームリビングからの小学校グラウンドで走り回る児童の姿を見る事など楽しみ事は多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援は日々の散歩や地藏さんへのお参りや初詣、季節の花見などを頻繁に行っている。又小、中学校の運動会等の行事参加や、地域自治会の夏祭りなどの参加で楽しんでいる。地域の老人サロンや従前の地域の老人会参加などの支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等の出入り口には施錠していない。利用者の外出時には職員が見守り寄り添っている。万一利用者が単独で外出する事があっても、近隣地区の協力で付き添って貰っている。夜間は防犯上施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会主催の防災訓練(年1回)に利用者も参加している。避難訓練は夜間当直1人の状況で地域の大勢の人々の応援や消防団、地域防災委員の協力で年1回行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は1日30種類以上食するように努め、季節を感じる材料を中心にして栄養バランスを配慮している。水分量は個々の健康状態や体力などを考慮してお茶、ジュースなど水分不足にならないように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンとリビングが一体となりリビングの横の6畳の畳コーナーには仏壇を備えてある。リビングの掃き出し窓からバルコニーに出られ、その前には小学校のグラウンドが広がりを見せる。児童の走り回る姿を見て心癒される。ホームの中は総てバリアフリー設計で広い廊下に、細かな配慮が施されたたずまいである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は整理整頓されている。居室のベッドは事業所で準備しているがそれ以外の家具は本人が使い慣れた物を持ち込んでいる。壁には家族写真や外出時のスナップ写真、手作りの絵手紙などで飾り、利用者にとって居心地の良い部屋となっている。		